

子ども未来プロジェクト会議

保育園・学校、家庭、地域の役割とは？

富士見町教育委員会
教育長 矢島 俊樹

見える ボランティア活動 仕事 もうける
活かす 生きる
交流 体制 関わる 経験
のばせる 遊ぶ 楽しむ 歴史 学習
不登校 活かす づくり 世界 歩く いく
魅力 通学 学び 自然 くれる 協力
保護者 小規模 pta 小 環境 考える
授業 学校 子ども 富士見
子ども達 先生 教育 できる 学ぶ 発信
1人1人 関わり 人数 小学校
学べる 教える 地域 体験 知る 活動 保育園
支える 遊ぶ 安心 少人数 つながり 不足
はまる やりくり ふれる 成長 見過せる 見守る
自ら 選択肢 選べる 覚える すぎる
なくなる 背負える

あげる スポーツ 支える 若い 夫 無い
一緒に 教育 あいさつ 一緒 楽しい うれしい
共有 親子 川 見る 家族 学校 子育て 兄弟
言える 会話 短い 子ども 行く いい 子供
増える 登山 違う 親 関わる
過ごせる 協力 ほしい くれる できる 景色 場所 もつ
富士山 核家族 家庭 よい 帰る 夫婦 助ける
とりづらい 距離 地域 大切 家庭 育てる 成長 良い
過ごす 放つ 山 祖父母 大人 戻る 成長 良い
入りづらい 手伝う 多い 楽しむ 戻るとりやすい
新しい

いく 世代 活かす 声 楽しむ 遊べる
御柱 教える 立沢 住民 機会 暮らす
参加 近所 保護者 顔 畑 魅力 サポート
発信 文化 言える
かける もつ 移住者 子ども達 場所 見守る 豊か 移住
つながる つなぐ 子ども 行事 知る 残る
富士見町 住む 皆 自然 地域 くれる 伝える
感じる 子どもたち 自然 地域 くれる 伝える
イベント 交流 祭り 育てる
与える 思う 地区 富士見 できる 分かる
関心 大人 活動 地元 つながり 自然環境
受入れる 育つ 元気 体験 あいさつ 子育て 増える
越える 保育園 くださる 下校 きれい 遊ぶ

国語、社会科、算数、理科、英語、音楽、
図画工作、家庭科、体育、道徳等教科の時
間は日本中で統一されている。先生はこれ
らの教科を年間で決められた時数だけ指導
しなければならない（小中とも1015時間）
夏休み等増える⇒余剰の時間の減少

**総合的な学習の時間は、目標や学習内容を各
学校で決めることができる（年間70時間）**

総合的な学習の時間は、子どものやりたいことができる。この時間を有効に使って「この町に帰りたくなる」学習を作っていきたい。

山ほいくは町内全ての保育園が長野県の認証を受けている。豊かな自然の中で、かかわりを深めながら、逞しい子どもを育てていきたい。

町にかかわる豊かな体験を子どもに

保育園 ⇒ やまほいく

学校 ⇒ アントレプレナーシップ教育

地域 ⇒ 私事の子育て

お世話になった 感謝の心

家庭 ⇒ 感動体験の共有

町内3小学校の個性的な取り組み アントレプレナーシップ教育の取り組みから

富士見小

- ・ 放置竹林からのメンマづくり
- ・ 放置柿からの洋菓子作り

本郷小

- ・ ルバーブを使ったソーダ水作り、販売
- ・ ルバーブを使ったクレープの開発販売

境小

- ・ 井戸尻考古館のマスコットづくり
- ・ 井戸尻考古館を宣伝する缶バッジ

地域の事実や課題を自分事として受け止め地域の
当事者ととともに自分ができることを広げていく

町内3小学校の個性的な取り組み
アントレプレナーシップ教育以外の取り組みから

富士見小

- すずらん遠足
- 諏訪支援学校、富士見高校との交流
- ひまわりの栽培とひまわり油

本郷小

- 自然観察教室
- 立場川を美しくする会
- 編笠山登山

境小

- 押立交流会
- 押立相撲
- マスつかみ大会（PTA）
- 編笠山西岳登山

それぞれの学校がこれまでの歴史の中で地域とともに作り上げてきた歴史を持っている。

ではそれぞれの役割を考えてみましょう

① 保育園・学校

公立保育園、公立学校にできることの
限界をふまえ、学校ができること、期待すること

② 家庭

シングル、共稼ぎが当たり前の世の中
子育ての役割をおうのは？

③ 地域

「よその子もわが子」が町のスタンダードになる
ためには？